



2020・6・11

第 376 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

安倍9条改憲断念まで手をゆるめずに

月 1 回の 3 の日活動重ね 66 回に

【和歌山県有田川町／きび9条の会・金屋9条の会・等】 6月3日、有田川町でスタンディングをやる、というので取材に伺いました。

午後1時前になると、有田川町役場下の交差点に次々に人が集まってきて、横断幕を持つ人、プラスターを持つ人がずらりとならび並びました。

このスタンディング行動は、きび9条の会、金屋9条の会、新婦人有田川町支部の3者が共同して取り組んでいます。

毎月3日と決め、この日は66回目。コロナで大変だった4月、5月も、離れて立つという配慮をしながら実施しました。

この日の参加者はちょうど20人。毎回20人前後の人が集まると言います。

参加者のお一人、きび9条の会（有田年金者組合）の山本正明さんは、毎回違った手作りの看板を持って参加されています。今回は「アベ ウィルスとんでいけ!!」。今までのものを残しているとのこと。機会があれば展示するなどして見せてもらいたいものです。

会期末で審議会開会めぐり対立

国会の会期末が17日に迫るなか、自民党は何とか憲法審査会を開き改憲論議に突破口を開こうと野党に迫りました。

衆院では自民党の新藤義孝・与党筆頭幹事が3日、電話会談で4日の開会を立憲民主党の山花郁夫・野党筆頭幹事に提案しました。しかし山花議員は野党が要求する予算委員会の集中審議が開られないことを理由に拒否。審査会は開かれませんでした。

参院では、自民党の石井準一・与党筆頭幹事が3日、立憲民主党の鉢呂吉雄・野党筆頭幹事に10日の審査会開会を提案しました。これに対し、鉢呂議員は第2次補正予算の審議を優先すべきとして応じませんでした。

その結果、与党の要求した国民投票法改定案の成立も先送りとなりました。

きび9条の会では、毎月15日正午には、浄教寺と西光寺の2つのお寺で「平和の鐘」を撞いていると言います。何回撞つくのか

と聞くと「気がすむまで」と喜多敏宏さん。
この取り組みは15年以上つづいています。

金屋9条の会では、毎月欠かさずニュースを発行しているそうです。

スタンディング行動は1時間足らずでしたが、20人がならぶと迫力があり、アピール力がありました。またこうして、毎月顔を合わすことで、それぞれの署名行動の力にもなっていくのだと感じました。

*その他の地域でも和歌山市地域（6月）や橋本・伊都地域（4月）などで、コロナ禍で中断されていた街頭宣伝などが再開されてきています。

（中北幸次「憲法9条を守るわかやま県民の会ニュース」6月号）

平和の象徴守る声富士の麓から

【静岡県富士市／憲法を考える富士の

会】 「安倍政権による改憲を絶対に許さない」と「憲法を考える富士の会」が、2017年6月から毎週金曜日午後5時からのスタンディングアピールを続け3年になります。

会は安保法制＝戦争法の強行をきっかけに憲法を学び、考え、伝え、いかすことを目的に17年3月に市民有志で結成されました。

コロナ禍で一時中断していたスタンディングも5月下旬に再開し、5月29日には市内主要道のロゼシアター前交差点に小長谷保代表（弁護士）をはじめ25人が参加。「憲法9条 日本のはこり」と書かれた横断幕や旗を持ちアピール。帰宅途中の人たちの注目を集めました。

元高校教師の峰村学さん（89）は「戦後が平和でいられたのは憲法のおかげです。

基本的人権の尊重、国民主権、平和主義を原則とする憲法で個人の権利が大事にされ、僕たちは守られてきた。法治主義を壊す安倍政権にはハッキリとNOの意思表示を続けたい」と話します。

「改憲は時代錯誤もいいところです」と語る松本哲司さん（70）。「富士市では富士山を平和の象徴といいます。将来の子どもたちに恥じぬよう、富士のふもとから平和の象徴である9条を守るために声をあげ続けたい」

「女性として声をあげ続ける」という女性（70）は「過去の戦争には女性たちも協力してしまい、その反省で戦後に女性たちは反戦の声をあげた。NOと言わないのは賛成していることと同じです。一人ひとりが幸せに生きる権利が書かれている憲法を守りたい」

小長谷代表は「不十分なコロナ対策や検察庁法改定の問題で安倍政権の本質があらわになって、国民も気づきはじめている。安倍政権のもとで憲法『改正』の心配がなくなるまで頑張る」と決意を述べています。

市民と野党の「合同街頭演説会」

【青森県五所川原市／西北五九条の会等】 「安倍政治を許さない」と全国で3日に行われている行動に連帯し、青森県の五所川原市ショッピングセンター前で、市民と野党の合同街頭演説が行われました。

主催の西北五九条の会、西北五市民アクションが各党に呼びかけ、実現したもので、市民40人が参加。安倍9条改憲ノー、桜逃げ切りノーと書かれた横断幕を掲げてアピールし、注目を集めました。

政党からは、立憲民主党の鶴賀谷貴県議、国民民主党の今博県議、日本共産党の花田進五所川原市議、社会民主党西北五総支部の井上浩代表が参加。「市民連合あおもり」からは、大竹進代表と昨年の県知事選に挑戦した佐原若子さんが訴えました。

各野党からは「10万円給付金が遅く、手続きが大変だとの声が寄せられている」「中小企業や店舗への休業補償を早く」、「安倍政権を打倒し国民主体の野党による政権を勝ち取ろう」と訴えられました。

最後は、参加者全員で「安倍内閣退陣」「野党共闘」「9条を守ろう」とシュプレヒコール。市民と野党で団結し、たたかう決意を示しました。

兵器爆買いやめコロナ対策に

【愛媛県松山市／高浜9条の会】 高浜9条の会は3日、市内のスーパー前で3の日宣伝に取り組みました。参加した10人は「アベ政治を許さない」と書かれたプラスターなどを掲げ「(コロナ禍から)国民の命と暮らしを守るために税金をつかわせよう」などとアピールしました。

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が解除されたのを受け、2ヵ月ぶりに宣伝を再開しました。

会員の高野長蔵さんは、「5兆円を超える過去最高の軍事費による兵器の”爆買”は要りません。コロナ不況への経済対策、フリーランスも含めた働く人たちへの所得補償、医療、公衆衛生の抜本的強化などに税金を使うべきだ」と強調しました。

新婦人松田支部宮前班の川西安妃子さんは、国会で焦点となっている第2次補正予算案の予備費10兆円について、「医療従事者への手当てや学校への人員配置など、使うべきところはたくさんある。予算を組み替えてほしい」と訴えました。

韓国等は兵器購入見直しコロナ対策に

【静岡市／憲法9条の会連絡会】 静岡市憲法9条の会連絡会は29日、憲法9条を守ろうと定例の「9の日」行動を葵区呉服町で行いました。

参加した8人は、強い日差しのもと、新型コロナウイルス対策で間隔をあけ、「戦争させない」「安倍やめろ」などのプラスター、「軍事費削ってコロナ対策にまわせ」と書かれた横断幕を持ちスタンディングアピール。通行人の注目を集めました。

合戸政治・すえひろ9条の会副代表らは、米国や韓国は新型コロナ対策費のためP35戦闘機購入を見直していると説明。「日本もP35戦闘機、イーグス・アショアなどの過去最高の軍事費の見直しをするべきです。改憲を許さず憲法9条を守り、いかしていきましょう」と訴えました。

安倍9条改悪NO!改憲発議に反対する緊急署名も呼びかけました。署名した女性(38)は「戦争で死んだ人のことを思えば二度と戦争を繰り返してはいけないと思う。命こそ大事。お互いの国のことを話し合い、理解する世の中になってほしい」と話していました。

安倍首相のコロナ対策は0点

【宮城県／九条の会連絡会】 宮城県の九条の会連絡会は2日、仙台市の中央通商店街で「安倍9条改憲ノー」と訴えるスタンディングを行いました。

横断幕を広げてプラスターを掲げ、交代でマイクを握り、「安倍政権は、今年も膨大な軍事費を計上し、不必要なイージス・アショアの設置をあきらめていません。しかし、国民がこれだけ困っているときにコロナ対策に回すべきではないでしょうか。みんなで声を上げればかえられます」と訴えました。

仙台市青葉区の76歳の女性は、「安倍首相は、苦しい人のことが分からないんだね。コロナ対策は全然ダメ。0点だね」と話し、青葉区の67歳の男性も、「あの人は上に立つ人としては最低だね。がんばってよ」と語りました。

安倍内閣は早く退陣しなさい

【岐阜県／岐阜・九条の会等3団体】

岐阜市の名鉄岐阜駅前で6日夕、「岐阜・九条の会」「秘密保護法廃止・ぎふ」「岐阜総がかり行動」の3団体が共同で宣伝し、「安倍さんは一日も早く辞めてくれ」と声を上げました。

12人参加。リレートークで社民党の戸田二郎副代表、ジャーナリストの高橋恒美さんらが、持続化給付金事業での電通資金疑惑、第2次補正予算の予備費10兆円計上問題など安倍政治の愚策を厳しく批判し、「無能、無策、うそつき・腐敗の安倍内閣は退陣せよ」と訴えました。

信号待ちの高2男子(17)が「安倍首相への批判が強まっているがなぜか」と質問。

団体役員が検察庁法改定案反対の世論やコロナ対策などで追い詰められている実態を詳しく説明すると、「ありがとうございました」と笑顔になりました。

参加者は「コロナ危機『持続化給付金』業務、幽霊会社をつくって大もうけ！血税を貪る安倍政権は退陣」などと書いたボードなどを掲げ、「防衛費をコロナ対策にまわせ」と書いたビラを配布しました。9日も同場所で行います。

野党の統一で安倍退陣へあと一押し

【東京都文京区／本郷・湯島九条の会】

まだ6月だというのに30度の炎天下、毎月第2火曜日定例の昼街宣をおこないました。11名の参加で、今回もプラスター、横断幕、マイクだけの行動でした。

気がついたことがありました。以前よりは多くなった通行人が、さまざまなことが書いてあるプラスターをけっこう見入っている姿でした。「逃げるなアベ政権」などと書いてあるものはみなさんよく見ていました。

マイクは、アメリカ合衆国の黒人殺害事件から始まり、日本での第2次補正予算案における憲法83条財政国会権違反の10兆円予備費の追及、コロナ禍での独や台湾の指導者の措置と比べ安倍政権の手際の悪さ、などなどを訴えました。

いよいよ安倍晋三政権の背中が見えてきました。安倍政権に政治の舞台から退場してもらおう時期がそこまできました。あと一息、立憲野党の統一を促進する市民運動がいよいよ大切になってきました。全力を投入してたたかいぬきましょう。